

# 平成18年度名古屋大学地震防災訓練及び救命講習を実施

●災害対策室



IB 電子情報館で行われた防災講演の様子

地震防災訓練が、10月11日(水)、東山地区、鶴舞地区、大幸地区、豊川地区、留学生会館及び国際嚶鳴館において、実施されました。

この訓練は、本学構成員の防災意識の高揚を図るとともに、マニュアルなどに定められた災害発生時の基本的な対応手順を確認する目的で、平成15年度から実施しているものです。今年度の訓練では、勤務（講義）時間中に、名古屋市内で震度6弱の揺れとなる地震が発生したという想定で、情報伝達、安否確認、避難、部局独自の訓練等が行われました。

当日は、午前10時37分に地震が発生したという想定で訓練がはじまり、直ちに平野総長から災害対策統括本部設置の指示が出されました。訓練開始の情報は、電話、FAX及び東山キャンパス内に設置した屋外防災無線装置（日本語・英語）で伝えられ、建物によっては館内放送も利用されました。訓練終了後は、IB 電子情報館において、鈴木災害対策室長による防災講演会や起震車による模擬地震体験が行われ、多数の教職員、学生が参加しました。

今回の訓練では、学生及び教職員の安否確認について、新しいシステムを使った訓練も実施されました。これは昨年までの訓練で明らかになった安否確認に時間がかかるという問題点を解決するために、情報連携統括本部と災害対策室が開発を進めたシステム、「名大ポータル」の一部を使い、自分の安否情報を携帯電話から登録できるようにしたものです。今回は経済学部、農学部など4部局を対象に、システム側から登録を呼びかける「発信型」の安否登録訓練を行い、多数の安否情報が登録されました。

また、今年度より地震防災訓練の一環として、名古屋市消防局の協力のもと、普通救命講習Ⅰ（成人コース・3時間）の出張講習が、東山地区において実施されました。

この講習は、8歳以上の心肺蘇生法を中心に学び、講義



シンポジオンで行われた普通救命講習の様子

（応急手当の必要性について(15分))及び実技(心肺蘇生法、AED取扱法、異物除去要領、止血法(15分))からなり、講習修了者には、名古屋市消防長の認定する「救命講習修了証」が交付されます。

今年度は、地震防災訓練当日を含めて計6日開催され、約240名が受講しました。参加者は、スラックス等の動きやすい服装で参加し、講義を受けた後、人形を使った実技に臨みました。最初は、照れもあってか、ごちない動作だった参加者も、講習が進むにつれてだんだんと熟達していきました。

講習終了後、参加者からは、「最近、駅ホームや学内にも設置されているAED（自動体外式除細動器）の取り扱い方法を知ることができてよかった」、「災害は起こらないに越したことはないが、いざという時には、今日勉強した技術を役立てていきたい」という声が多く聞かれました。

今年度は、240人の定員に対して申し込みが殺到し、定員オーバーで受講できなかった人も多数でため、来年度以降も継続して実施する予定です。